

## 第7章 今後の計画の推進のために ～これまでの活動事例～

---

- 1 地域での支え合い活動の取り組み
  - (1) 常盤平西窪町会
  - (2) コミュニティ五番街
  - (3) 根本連合町会
- 2 高齢者支援連絡会の取り組み
- 3 地域支え合い体制づくり事業の取り組み



## 地域での支え合い活動の取り組み

[常盤平西窪町会、コミュニティ五番街、根本連合町会]

平成23年度に本市で実施した「地域支え合い体制づくり事業」の中から、重点項目である「地域での支え合い活動の推進」に関連し、見守り・声かけ活動、サロン等の交流・居場所づくり、防災対策等に取り組んだ町会・自治会、また、計画見直し専門部会で意見が出された集合住宅における見守り活動について、委員から推薦があった自治会の取り組みを紹介します。

# 1 防犯・防災マップづくりと見守りネットワークの構築 /常盤平西窪町会

👉 住民の協力を得て防犯防災マップを作成  
(井戸や危険・防犯注意箇所、生活に活用できる情報を含むマップ)

## 1. 活動の経緯

3. 11の大震災により、改めて家族の絆・地域の絆、そして助け合い・支え合いの大切さを知りました。町会内に、事件・事故が起きた時防火防災リーダーの組織作りと、高齢者・障害のある人・子ども達の支援、見守りのための住所録・家族構成の名簿発刊とマップ作り、また組織の受け皿として、「まちづくり委員会」を立ち上げました。

## 2. 活動の内容

- アンケート
- 1 回目：挨拶とコミュニケーションの取り方について
  - 2 回目：趣味・特技・自慢できるものなどの調査について
  - 3 回目：マップと名簿発刊の作成について

⇒町会でのアンケートにより、マップ作りと名簿発刊が決定。平成23年9月より制作開始。

### ○防犯・防災マップ

「災害時の避難場所・貯水槽・井戸のある家・公園・病院一災害用伝言ダイヤル・地震の心得10ヶ条」

### ○あかね会（高齢者）・子供会用マップ

「年間行事・活動内容・名称・病院に番号を付けてピンポイントに表示」

### ○名簿発刊

「名前・住所・家族構成・町会行事、規約・10大ニュース・写真構成・イラスト・設計」

「ふれあい情報箱の設置」 「インターネット作成・内容構成」 (防犯・防災マップ)



## 3. 今後の方向性

高齢者の見守りと子育て支援・認知症、引きこもり支援などの、ふれあいチーム作り、今後の継続事業として、まちづくり委員会（資金300,000-）を継続して、支援体制とチームづくりをしていきます。

ネットワークの内容を研究しながらつづけて行き、当町会だけでなく、近隣町会との連携を図り、分かりやすいものを作っていきます。

## 2 集合住宅(新松戸)における高齢者支援の取り組み

/コミュニティ五番街

☞ 『顔の見える関係づくり(喫茶やイベント)』『ゴミ出し支援』『声かけ』

### 1. コミュニティ五番街の概況

設立後33年、808世帯、住民約2,000人のマンション。管理組合と自治会の機能を併せ持つ「コミュニティ五番街」。子ども会、シルバー(高齢者)クラブ、ふれあいのわセンターのほか、スポーツ、趣味、同好会の24のクラブ・サークルがある。また、夏の納涼祭、年末の餅つき大会、地域の新松戸まつり、近隣町内会(七五西交流会)との合同企画では、敬老会、音楽祭、文化祭など、理事会の積極的な支援のもとに活動が盛んで、それぞれ10年、20年、30年の実績を重ねている。広報誌の月次発行、ホームページの10前からの実施など、住民への情報交換にも力を入れている。けやきの街路樹を中心に緑あふれる住環境にも恵まれている。

### 2. 活動の内容

#### (1) サロン活動

平成13年以来高齢者支援の必要を感じ、マンションの集会所を利用してのサロン活動を月2回「憩いの場」「喫茶花水木」として開催、それぞれ100回を超える10年来の実績を持つ。運営主体は約50名の住民ボランティアが交代で、来客数は月当たり延べ約130名。

(「喫茶花水木」の様子)



#### (2) 生活支援活動

①ゴミ出し 平成23年から希望高齢者のゴミ出しを実施、年間延べ約400件、約70名のボランティアが交代で分担。②声かけ安否確認 平成24年から希望単身者に対し、電話による「お元気確認」を行っている。③平成25年からボランティアにより居宅を訪問しての「お話相手」を実施している。

### 3. 今後の方向性

住民全般に対する高齢者対応のイベント実施、情報提供から進んで、個々の高齢者への対応が必要になってきている。行政、介護保険、別居している家族と、高齢者を取り巻く環境の中で、同じマンションに住む隣人として、その隙間を埋めていく活動は何かを模索している。多様な生活スタイルを持っている住民個人を尊重して、個人情報の確保に留意しながら、隣人としての適切な支援として何が出来るか、高齢者個人の意向は何かを考え、活動したい。

(五番街ふれあいのわネットワーク委員会)

### 3 中高齢者コミュニティづくり ～中高齢者が集う「天満宮談話室」を開設～ /根本連合町会

👉 中高齢者が集う拠点を整備しサロンを毎日オープン  
(出前講座、健康体操、地域の子どもたちとの交流、趣味の発表の場など)

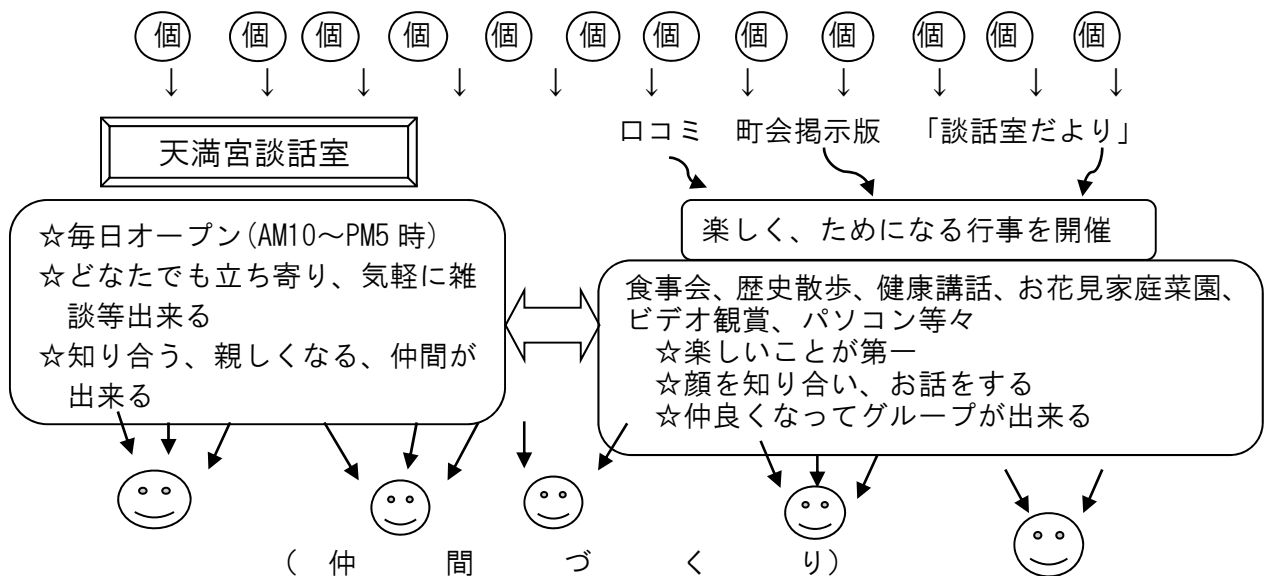
#### 1. 経緯とねらい

災害等を考えると、町会活動は、最終的には、町会内の人の交流と一体感醸成が最重要課題。そのため、自由に交流できる「場」として、根本天満宮内に「天満宮談話室」を開設した。

その狙いは、

1. 楽しく、元気でいてほしい。
2. 人と知り合い、気の合う仲間を作ってほしい。
3. 知って得する生活の知恵を学んでほしい。

#### 2. 活動概況



##### 【スタッフの心構え】

1. 上から目線はダメ。どんな方でも自分の人生に誇りがある。相手の立場で話す。
2. 押し付けない。無理をしない。時期を待つ。(息の長い事業であるという認識)
3. 気分と自発性を大切にする。前向きな意見は取り入れて実現する。

##### 《活動実績》

- ☆ この一年、何とか、毎日、オープンすることが出来た。
- ☆ 行事は、月一回の食事を含め、概ね2回～3回/月
- ☆ 談話室立ち寄り人数は、約200人/月(スタッフを含む)

#### 3. 今後の課題

1. 会員を増やす(収支の改善にもなる)。各町会長からの更なる協力が不可欠。
2. 少しずつ、企画を充実させ、仲間づくり(グループ)を一層進める。

## 高齢者支援連絡会の取り組み

地区社会福祉協議会ごとに設置している高齢者支援連絡会は、第1次計画時(18年3月策定)の5地区から現在では9地区に設置地区を拡大し、高齢者のみの世帯や、一人暮らしの高齢者等への見守り・声かけ等の活動に取り組んでいます。

### 【設置地区】

- |            |           |
|------------|-----------|
| 1. 五香松飛台地区 | 6. 小金原地区  |
| 2. 六実六高台地区 | 7. 新松戸地区  |
| 3. 常盤平団地地区 | 8. 明第2西地区 |
| 4. 常盤平地区   | 9. 小金地区   |
| 5. 東部地区    |           |

# 高齢者支援連絡会

事務局 高齢者支援課

## 1. 目的

高齢者支援連絡会の目的は、地域支援事業実施要綱（平成18年6月9日老発069001号）に定める目的<sup>1)</sup>に則り、地域に暮らす高齢者の見守り等の活動を通じて、高齢者の安心安全な生活を支援することです。現在市内9地区で活動をしています。

<sup>1)</sup>地域支援事業は、満65歳以上の被保険者が要介護状態又は要支援状態（以下「要介護状態等」という。）となることを予防するとともに、要介護状態等となった場合においても、可能な限り、地域において自立した日常生活を営むことができるよう支援することを目的とするものです。

## 2. 具体的な取り組み

高齢者支援連絡会は、目的を達成するために、地区在宅介護支援センター・地区社会福祉協議会等の地域の社会資源との連携を図りながら、高齢者の見守りを実施します。

また見守り活動の他に、生活情報の提供、相談場所の案内等、地域の実情に応じて高齢者支援に資する活動を実施します。

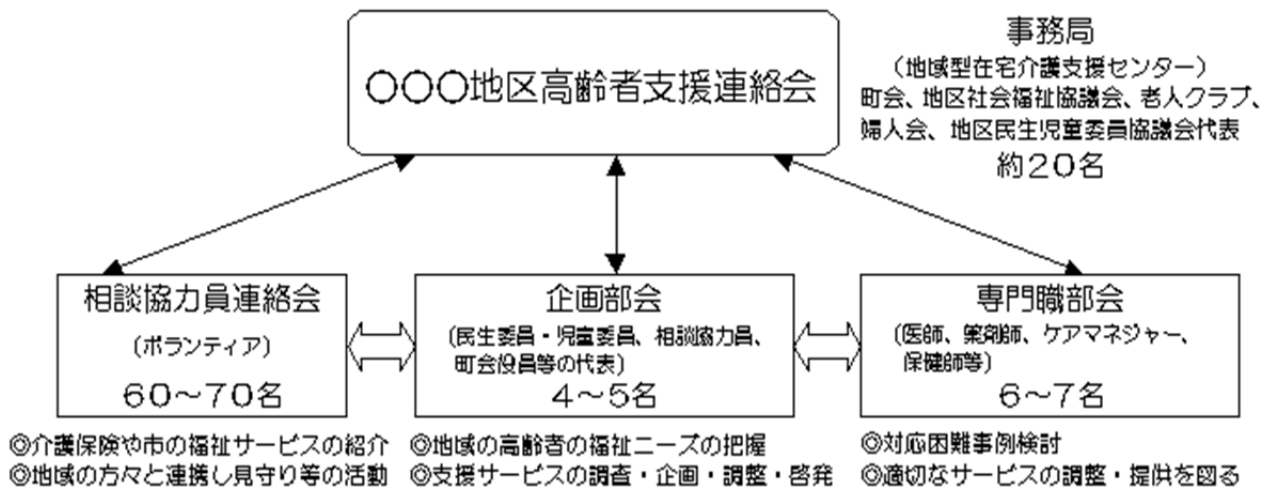
例) 相談協力員による高齢者見守り活動、地域でのPR活動、地域のネットワーク作り、地域資源マップの作成、研修会等、地域の実情に合わせて、活動を行っています。



### 3. 連携体制

下の図は、高齢者支援連絡会の仕組みを表す一例ですが、それぞれの地区の福祉、医療等の各団体、機関から選出された委員で構成されるため、地区によって構成員や仕組みが異なる場合があります。

高齢者支援連絡会の仕組み（一例）



### 4. 今後の方向性

平成23年度9地区で高齢者支援連絡会が設置されボランティアによる見守り・声かけ等の活動が行われています。残る地区への働きかけを行いつつ高齢者支援連絡会の必要性について検討していきます。

# 五香松飛台地区高齢者支援連絡会

## 1. 設立までの経過

平成13年度「松戸市高齢者ケア会議」の計画に基づき、地域高齢者支援事業のモデル事業として五香六実地区が実施することになり、五香地区高齢者支援連絡会が設立された。

五香六実地区は、昭和40年（1965年）頃から宅地開発が進み人口が急増した地域で、今日では高齢化が進み高齢化率が30%を超える地域も出現しており、地域で高齢者の自立生活を支援する体制づくりが重要な課題になっている。

平成23年4月、五香六実地区高齢者支援連絡会は地域の実情を鑑み、地域に密着したきめ細かな活動が行えるよう、五香松飛台地区高齢者支援連絡会と六実六高台地区高齢者支援相談委員会とに分割し、それぞれ地域の特性に合った活動を展開することとなった。

当高齢者支援連絡会は、地域の町会・自治会と民生委員と連携し、高齢者が安心して暮らせる健全な地域社会づくりを目指して活動を展開することとしている。

## 2. 現在の活動(各部会の活動)

- <相談> 個々の相談に対応し、行政、地域包括支援センター、在宅介護支援センター等と連携し、問題解決のため支援を行う。
- <見守り> 地域の高齢者とその家族の実状を把握することに努め、見守り、声かけ活動を行う。
- <情報収集> 定例会、地域の集会・行事、研修会、施設見学会などに参加し、地域の情報を把握する。
- <環境整備> (広報)会報の発行、相談協力員だより、講演会・行事案内チラシ等の配布、声かけ活動など、高齢者とのふれ合いの機会を増やす。地区社協主催の「ふれあい広場」などに参加協力し、地域のネットワークを広げる。
- <会議> ・評議員会：年2回（5月、10月）開催  
・定例会：隔月（奇数月・第4木曜）開催  
・運営委員会：隔月（奇数月・第4木曜）開催  
・班長・副班長会議：隔月・定例会終了後開催  
・研修会・見学会：研修会は定例会時に実施。施設見学会は年1回実施

## 3. 課題や問題点

地域の町会・自治会と民生委員と連携を強め地域の高齢者の自立生活とその家族等を支援するシステムを構築する。町会・自治会、民生委員および高支連相談協力員と地域の高齢者の情報を共有し具体的な支援体制を検討する。



## 4. 今後の方向性

町会・自治会、民生委員、高支連相談協力員の三者の連携を強め、地域高齢者の支援体制を構築する。

# 六実六高台地区高齢者支援相談員会

※平成23年度より六実六高台地区は「高齢者支援相談員会」という名称に変更しました。

## 1. 設立までの経過

平成13年度、「松戸市高齢者ケア会議」討議の結果、五香六実地区において松戸市のモデル事業として実施。

五香六実地区は昭和40年(1965年)頃から宅地開発が進み人口が急増した地域で、今日では高齢化が進み高齢化率が30%をこえる地域も出現し、地域で高齢者の自立生活を支援する体制づくりが重要な課題になってきた。

その後平成23年より、きめ細かく地域に密接した活動が出来るよう、五香松飛台地区とわかれ、六実六高台地区高齢者支援相談員会は、この地域の高齢者の自立生活とその家族等を支援するシステムを作り、高齢者が安心して暮せる健全な地域社会づくりを推進することを目的として設立された。

## 2. 現在の活動(各部会の活動)

- <相談> 個々の相談に対応する。
- <見守り> 必要な家族の把握に努め、見守り、声かけ等をする。
- <情報収集> 相談員会、研修会、施設の見学会などに参加する。
- <環境の整備> (広報)新聞の発行、パンフレットの配布、ステッカーの貼り付け。高齢者とのふれ合いの機会を増やす。



- <会 議> 総会…5月 役員会…4月、10月  
企画会・運営委員会(班長)…毎月第4月曜日  
相談員会・研修会・会議・情報交換…5月・7月・9月・11月・  
1月・3月(年6回開催)特に力を入れているのが、公開講座。

## 3. 課題や問題点

- ・町会や民生とのつながりをより強くする。
- ・町会により活動体制に濃淡があり、徐々にでも引き上げてゆきたい。
- ・町会により支援相談員の増員を図りたい。

## 4. 今後の方向性

今まで通り、公開講座で地域の方に情報提供を行い、相談員の研鑽に努め、きめ細かな見守りに努めたい。

# 常盤平団地地区高齢者支援連絡会

## 1. 設立までの経過

常盤平団地地区社会福祉協議会を作って17年、同団地地区社会福祉協議会の中に高齢者支援事業を立ち上げて10年が経過している。

## 2. 現在の活動(各部会の活動)

組織上は2つの組織を運営するなど団地地区社会福祉協議会の事業をもって高齢者事業を推進してきた。屋上屋を架すことになるということで、屋上屋を避けて団地社協の事業活動をもって高齢者事業を推進してきた。



## 3. 課題や問題点

高齢者支援事業を意識して推進したのが孤独死問題の取り組みである。そして孤独死ゼロ作戦に取り組むことにより、見守り活動、いきいきサロン事業、安否確認の活動についても深みを増すとともに、地域ぐるみでその一環として電話相談を毎日受け個別対応ができたこと、その他各分野、機関、企業と連携ができたこと、高齢者孤独死予防の活動を展開できたことが成果と言える。

## 4. 今後の方向性

高齢化率が上昇している現実をふまえて孤独死対策も含め「終活フェア」を開催するなど、「死」や「終活」テーマをタブー視することなく、積極的に地域福祉の視点に立って取り組み先進的な成果を上げていく。基本的な視点としては、閣議決定の高齢者対策大綱をふまえ地域で努力をしたい。

# 常盤平地区高齢者支援連絡会

## 1. 設立までの経過

常盤平地区高齢者支援連絡会は、平成16年1月に発足、平成16年10月から個別活動を開始し、発足当初は、高齢者支援連絡会委員自身が活動の理解を深めることを目的に取り組んできた。

## 2. 現在の活動(各部会の活動)

### (1) 相談協力員の主な活動について

自主的な企画運営を行うための運営委員や連絡会を開催、研修会【公開講座・全体交流会】を実施して、地域住民に開かれた学びあいの場を提供している。

また、広報活動として、町会回覧や掲示板を通し、相談協力員の募集や研修会【公開講座】の実施について地域に周知・通信の定期発行。(全戸配布)

そのほか、地域活動として、町会・自治会活動、地域の催事及び社会福祉協議会等の活動に参加、地域高齢者の見守り・声かけを行う等さまざまな活動をしている。



### (2) 専門部会の主な活動について

主に地域の高齢者に関連した相談や問題を取り上げ、解決策を検討している。また、事例検討の内容を通じた福祉に関する制度や知識を高年齢者支援連絡会通信「知っ得と便利帳」へ掲載し、地域住民への周知をしている。

## 3. 課題や問題点

常盤平地区では、相談協力員、市政協力委員、民生委員・児童委員、専門職、行政とのネットワーク、連携・協力体制及び情報共有のさらなる強化が課題として、高齢者支援連絡会全体が活動している。

また、地区全体の地域課題のみならず、各町会・自治会ごとの地域課題と地域性の把握・整理をし、解決に向けて検討していくことが必要。

## 4. 今後の方向性

現在、年に1回全体交流会を開催し、地域住民や高齢者支援連絡会委員全員の参加を呼び掛け、顔の見える関係作りを中心に取り組んでいるが、今後は、各町会・自治会ごとにおいても交流会を開催していくこと及び、町会すべてから相談協力員が選出されること等を目標に高齢者が可能な限り住み慣れた自宅や地域で、安心して暮らすことができるまちづくりを目指してさらに活動を推し進めていきたい。



# 東部地区高齢者支援連絡会

## 1. 設立までの経過

平成16年、東部地区高齢者支援連絡会として設立され、企画部会を中心に、組織、運営について検討を重ねた結果、平成17年に高齢者支援の柱である「声かけ、見守り」を地域の中で実践する相談委員部会が設置された。

その後、専門家との連携を図るため、医師、地区担当保健師、介護支援専門員、地域包括支援センター、在宅介護支援センター等の担当者からなる専門部が発足し、現在に至る。設立当時は、手探り状態の中「勉強会、研修会」と重ねながら活動をするものの、なかなか地域住民及び高齢者に認知されなかったが、地道な活動継続の結果、現在では多くの方々に周知されつつある。

## 2. 現在の活動(各部会の活動)

- ・役員会 定例会(年10回) 各部会から意見を取り上げ、検討、取りまとめ、決議等を行う
- ・企画部会 定例会(年7回) 活動のための総合企画を行い各関係機関との連絡調整、相談員の確保要請及び増員活動、各種イベント講演会等への参加、地域への広報活動、チラシ・パンフレットの作成、配布
- ・専門部会 定例会(年5回) 事例検討及び合同研修会の実施、各部会と協働し地域の中の課題を専門的見地から助言
- ・相談委員部会 定例会(年11回) 見守り・声かけを軸に各担当地域内での個別訪問活動の実施、報告書の作成、施設見学会、各町会自治会・各団体との情報交換、地域活動への積極的参加、地区交流会「ほっとサロン」を7か所にて開催、高齢者世帯の地区マップの作成等

\*平成24年度研修会テーマ 高齢者虐待防止、成年後見制度、介護予防プランの作成について、ケアマネジャーとは、介護保険の上手な使い方について

\*平成24年度参加行事 東部地区関係団体主催《東松戸まつり》  
東部地区社会福祉協議会主催《ふれあい広場》

## 3. 課題や問題点

- ・個人情報保護法の下、どのようにして各関係機関との連携、情報の共有を図ればよいか
- ・高齢者世帯の地区マップの作成を早急に完成させたいものの、なかなか進まない
- ・平成25年度は一部に相談委員不在の地区があるので、該当地区関係者と協議の上、相談委員の設置を図る
- ・活動資金が不足している



## 4. 今後の方向性

- ・「ほっとサロン」活動をさらに各地区に広げ、より多くの地区での開催を促進する
- ・独居高齢者の見守り活動の方法を検討し、実施方法を検討する
- ・東部地区関係団体及び地域関係者と連携を図り、支援活動を更に邁進させる

# 小金原地区高齢者支援連絡会

## 1. 設立までの経過

平成16年、松戸市より小金原地区の地区長に「高齢者支援連絡会」設立の相談があり、高齢者ケア会議での議論を経て、平成17年3月に小金原地区高齢者支援連絡会が発足した。

## 2. 現在の活動(各部会の活動)

ボランティアとして公募で募った高齢者相談協力委員(現在30名)の活動を中心とした地域での高齢者支援のしくみ作りを行っている。組織は、総会、役員会、企画部会、専門部会、高齢者相談協力委員部会から成る。

企画部会は、18町会・自治会長、民生児童委員、地区社協の役員、老人クラブ、ボランティア団体の代表が役割を担い、高齢者支援連絡会の活動やPR方法の検討を行っている。高齢者相談協力委員と地域との連携の推進や、高齢者相談協力委員の新規募集及び欠員地域の補充に取り組んでいる。

専門部会は、専門職の視点から活動を支援している。月に1回定例会を行い、事例検討を中心に活動を行っている。他部会への参加、さらに地区の民生委員やケアマネジャーとの交流会や施設見学を企画・実施している。

高齢者相談協力委員部会は、日常の高齢者の見守り、声かけ活動の他、地域ぐるみで高齢者を支援するための「みまもりマップ」作成に取り組んでいる。民生委員との連携を深める為の交流会やケアマネ交流会、施設見学会にも積極的に参加している。地域の方々への周知を目的として広報紙「ぬくもり」の発行や「高齢者相談協力プレート」を各自の玄関先に提示している。また、小金原地区福祉フェアに参加し、肉まん販売とPRカードの配布を行った。日頃の地域活動(「ちょっといっぷく」や各町会で行われているお茶飲み会や町会行事等)にも積極的に参加し、地域の高齢者との交流を深めている。



## 3. 課題や問題点

新しい地域の組織として高齢者支援連絡会、高齢者相談協力委員は、まだ町会・自治会の中で十分に認知されているとは言えない。しかしながら、高齢者対策に高齢者相談協力委員と協力して取り組む町会・自治会も多くなってきている。その取り組みをもっと広めていきたい。

民生委員との交流会のみならず、町会・自治会を巻き込んだ交流会を実施して、お互いの理解を深めていきたい。

## 4. 今後の方向性

町会・自治会、民生委員、老人会、ボランティア団体等と連携、地域交流しながら小金原地区にあった高齢者支援の仕組み作りを考え、活動していきたい。

# 新松戸地区高齢者支援連絡会

## 1. 設立までの経過

支援を必要とする高齢者にとっては、国の制度と市のサービスだけでは不十分で、様々な制度と合わせた地域の支援も必要となる。そこで、“高齢者が出来るだけ住み慣れた自宅や地域で安心して暮らせる”ように、また“地域の課題は地域で解決する”という地域福祉の理念に基づき、高齢者支援連絡会が設立した。

## 2. 現在の活動(各部会の活動)

高齢者支援連絡会について理解と協力を得るための啓発事業・街づくりや具体的な活動等を支援するために必要な事業を行っている。(部会等は設けていない)

- ・委員、地域住民への「勉強会」を実施
- ・地域住民への「出張勉強会」を実施
- ・各町会の活動など情報交換の場として「地域懇談会」を実施
- ・広報紙の発行を行い、各町会の協力を頂き全戸に回覧を依頼など。



(勉強会風景)

## 3. 課題や問題点

新松戸地区高齢者支援連絡会は発足して8年目になり、これまでに地区住民を対象とした勉強会や懇談会の開催、広報紙の発行等を行ってきたが、高齢者支援連絡会の実態・活動内容等の周知はまだまだされていない。

自分が困るまでは干渉されたくないという風潮が強いこの地区で、どう地域の中に入り込んでいくか、住民との関係をどう構築していくかを検討していく必要がある。

また、高齢者支援連絡会の委員それぞれに、活動参加に対しての考え方の温度差がある状況が続いている。

## 4. 今後の方向性

今年度実施内容については昨年とほぼ同様で、啓発事業・街づくりや具体的な活動等を支援するために必要な事業を行う。

各町会、自治会、管理組合、老人クラブ等の活動支援ならびに情報交換の場として、シンポジウムや懇談会を開催

…今回の懇談会には半数以上の町会等が参加し、今回初めての試みにも関わらず、多くの意見交換、情報共有ができた。今後もフィードバックする機会としてこのような懇談会を年に何度かは設け、地域住民のニーズを吸い上げていく。高齢者支援連絡会として地域に協力していける活動、一緒にできること等を明確にしていく。



# 明第2西地区高齢者支援連絡会

## 1. 設立までの経過

平成18年2月より準備会を開催、同年3月に総会を行い発足。

## 2. 現在の活動(各部会の活動)

(企画部会)

- ・年5回部会開催。主に高齢者支援連絡会全体会の運営、町会・民生委員協議会との連携及び組織体制の確立を行っている。また、三者懇談会(町会)の開催、町会、民生委員と高齢者支援連絡会との意見交換会の企画を行っている。

(専門部会)

- ・年間6回開催。
- ・「相談シート」を活用した、地域へのサポート体制を確立する。
- ・地域で福祉活動をする方と、その地域で活動する専門職等が交流できる機会を設ける。
- ・サービス事業者職員対象の研修会及び懇談会等の企画を行う。
- ・地域イベントへの参加

(相談協力員)

- ・全体会 年3回開催。グループ会議年5回開催。
- ・ハンドブック作成
- ・三者懇談会への参加
- ・施設見学
- ・高齢者の見守り活動 町会長、民生委員と情報共有を行う。
- ・町会サロン・友愛配食などの地区社協活動の手伝い。
- ・地域ごとの福祉マップの作成、共有。

## 3. 課題や問題点

- ・町会、民生委員等、構成組織との連携方法
- ・地域住民への広報活動
- ・グループ会議の運用方法

## 4. 今後の方向性

- ・町会、民生委員との連携を密にし、見守り・声かけ活動を強化していく。
- ・町内の老人会、サロン活動と連携し、高齢者自身の活動にしていく。



# 小金地区高齢者支援連絡会

## 1. 設立までの経過

平成17年に松戸市介護支援課の指導のもと小金地区社協で協議を重ね、「小金地区高齢者支援連絡会設立準備会」を立ち上げ作業を進める。

平成18年3月～12月までに11回の準備会を開催。既に設立した地域の事例を参考に検討を重ね、活動システムを決定。

平成18年6～7月に町会・自治会長と民生委員・児童委員に対しての説明会を北部・南部地区各2回ずつ計4回開催し、高齢者支援連絡会の目的等を説明。また、市政協力委員の小金地区会・小金地区社協に対して報告をし、高齢者支援連絡会の設立について賛同を得た。

平成18年12月22日の設立総会を以って活動をスタート。

## 2. 現在の活動(各部会の活動)

- ・高齢者の見守り
- ・独居高齢者宅への訪問
- ・地域活動への参加・協力（町会会合・地区社協主催行事など）
- ・地区交流会（高齢者支援連絡会委員・町会・自治会長、民生委員・児童委員での意見交換）開催
- ・全体会（高齢者支援連絡会全委員対象の研修、意見交換）開催
- ・役員会、専門部会開催

## 3. 課題や問題点

- ・民生委員・児童委員との協力体制の強化
- ・高齢者支援連絡会への理解や協力について町会ごとに温度差があるが、どのようにして無くすか
- ・見守り対象者の洗い出し（行政への情報提供の要請）
- ・高齢者支援連絡会の存在と役割を多くの地域住民に理解して頂くための広報活動

## 4. 今後の方向性

- ・高齢者の生き甲斐づくり
- ・見守り活動報告書内容の検討と活用
- ・高齢者支援連絡会委員の活動紹介としての広報紙発行
- ・高齢者支援連絡会委員の地位向上を図る

## 平成23年度 地域支え合い体制づくり事業の取り組み

平成23年度に国の「地域支え合い体制づくり事業」を活用し、地区社会福祉協議会や町会・自治会、NPO\*法人など21団体が地域での日常的な支え合い活動の体制づくりの立ち上げに取り組みました。

# 平成23年度 地域支え合い体制づくり事業【主体別概要】

## 町会・自治会

幸谷町会 高齢者等実態調査・  
新松戸東町会 安否確認システムの構築

常盤平西窪町会 防犯・防災マップづくりと  
見守りネットワーク構築

松飛台北町会 高齢者の地域見守り  
と介護予防

梨香台団地自治会 拠点整備  
(ふれあいサロンの設立)

どっこいしょでありがとう会  
コラボサロン

根本第三町会 中高齢者コミュニティづくり

常盤平団地自治会 啓発出版事業

## 社会福祉協議会

松戸市社会福祉協議会  
・地域支え合い活動の立ち上げ支援  
・心身障害者・高齢者の外出支援事業  
(福祉カーの貸出事業)

矢切地区社協 災害時要援護者支援・  
防災体制の構築

明第1地区社協  
災害弱者情報の調査と災害発生時近隣  
自治会・町会との情報交換組織づくり

馬橋地区社協 防災まちづくりⅡ  
(防災無線・避難所誘導看板)

小金原地区社協  
災害支援ボランティア整備事業

常盤平団地地区社協 いきいき福祉塾

## NPO法人

特定非営利活動法人NPOメーク  
拠点整備事業 (サロン整備)

特定非営利活動法人(NPO法人)  
孤独死ゼロ研究会  
よろず相談、研究事業  
(安否確認から納骨までの総合相談事業等)

特定非営利活動法人千葉県精神保健福祉ネット  
地域で孤立している精神障害者等の支援事業  
(訪問型相談支援)

NPO法人おおぞら  
地域で孤立している精神障害者等の支援事業  
(訪問型相談支援)

NPO法人地域支援センター  
支え合いネットワーク構築事業&  
生活支援を行う各種団体等との連携

特定非営利活動法人 土曜会  
心のケア相談員養成研修

## 社会福祉法人

社会福祉法人松栄会  
特別養護老人ホーム ひまわりの丘  
認知症高齢者等の見守り・支援体制の構築  
(交流事業、職員のスキルアップ研修)

## 自治体

松戸市 地域ケアシステム事業  
(要援護者台帳整備事業)

# 平成23年度 地域支え合い体制づくり事業【事業概要】

| No. | 事業主体              | 問い合わせ先                         | 区分                                  | 事業  | 高齢 | 認知 | 障害 | 家族 | その他 | 事業概要   |  |   |   |
|-----|-------------------|--------------------------------|-------------------------------------|---|----|----|----|----|-----|--|--|---|---|
| 1   | 幸谷町会<br>新松戸東町会    | 地域福祉課                          | 要援護者支援関係<br>防災体制・<br>防災体制・<br>防災体制・ | 高齢者等実態調査及び安否確認システムの構築   | ○  |    | ○  | ○  |     | ①域内居住の65才以上の高齢者について、「氏名、性別、健康状況等」の調査を行い、「あんしん電話システム」への加入斡旋を行った。<br>②「あんしん電話システム」加入者には、診療所と連携し、週に1回電話にて、体調などの安否確認を行った。<br>③2日間電話応答がない加入者には、相談員が自宅を訪問し、本人の安否を確認した。<br>④高齢者の皆様を集会場へお招きし、月1回健康講座、ゲーム大会、映画会、お雑餅作りなど、町内交流会を実施した。 |  |   |   |
| 2   | 常盤平西窪町会           | (旧)健康福祉本部<br>企画管理室<br>(現)地域福祉課 |                                     | 防犯・防災マップづくりと<br>見守りネットワーク構築事業   | ○  |    |    |    |     |  | ①研修のため、立川市大山自治会を視察した。<br>②防災用マップ、あかね会・こども会用マップ、西窪町通信(月1回発行)等を作成し、災害時の対応や、町会行事について周知を行った。<br>③独居老人等要介護者を地域で支える見守りネットワークを立ち上げている。                  |   |   |
| 3   | 松飛台北町会            | 地域福祉課                          | つどいのサロン                             | 高齢者の地域見守りと介護予防  | ○  |    |    |    |     | 高齢者の孤独化防止と介護予防を目的とした、高齢者対象の介護予防の企画を取り入れた「お茶飲み会」を月1回、開催した。  |  |   |   |
| 4   | 梨香台団地自治会          | 地域福祉課                          |                                     | 地域支え合い体制の構築に資する<br>拠点整備   | ○  | ○  | ○  | ○  | ○   |  | ①地域交流と買い物難民対策を目的に、「ふれあいサロン」を始め、コーヒー等の販売と買い物代行事業を行った。<br>②「ふれあいサロン」の維持運営のための人材育成を目的に、専門講師による研修会(月1回から2回)を開催した。<br>※現在は「特定非営利活動法人アイギス」が活動している。     |   |   |
| 5   | どっこいしょで<br>ありがとう会 | (旧)健康福祉本部<br>企画管理室<br>(現)地域福祉課 |                                     | 「コラボサロンこやま」どっこい<br>しょでありがとう   | ○  | ○  | ○  | ○  | ○   |  | ①昔の遊びの復活、異年齢ふれあい遊び(5回)<br>②和太鼓あそびでストレッチ(3回)<br>③交流会(食事会)・お茶会(11回)<br>④研修会・勉強会(5回)<br>⑤新聞の発行(6回)<br>⑥健康体操を毎月行った<br>上記を通して、地域交流を一層深めた。             |   |   |
| 6   | 根本第三町会            | 地域福祉課                          | ネットワーク・<br>連携体制構築                   | 根本地区中高齢者コミュニティ<br>づくり   | ○  |    |    |    |     | 中高齢者への総合的サポートを目指した町会、NPO、地区社協が連携した談話室の運営(1月から3月まで約延べ480名参加)及び行事イベントの開催。行事イベントは松戸市歴史散歩(2回)、食事会(2回)、健康管理出前講座(2回)、社協主催のふれあい会(1回)など。   |  |   |   |
| 7   | 常盤平団地自治会          | (旧)高齢者福祉課<br>(現)高齢者支援課         | 啓発事業                                | 啓発出版事業  |    |    |    |    | ○   | 自治会の地域活動等の経験と教訓をまとめ、今後の地域振興と福祉でまちづくりに活かすため、冊子『ふるさと常盤平』を保存版として出版した。常盤平団地全戸配布・松戸市関係団地・講演、視察の際に配布した。  |  |   |   |
| 8   | 松戸市社会福祉<br>協議会    | (旧)健康福祉本部<br>企画管理室<br>(現)地域福祉課 | 要援護者支援関係<br>防災体制・<br>防災体制・<br>防災体制・ | 地域支え合い活動の立ち上げ支援   |    |    |    |    |     | ○  | ①災害支援ボランティアの養成講座を開催した。<br>②災害支援ボランティアハンドブックの作成を行った。<br>③災害ボランティアリーダーの育成講座を開催し、受講者をボランティアリーダーとして登録、その中でチームリーダーを決め、今後の研修を主体的に実施してもらうこととなった。        |   |   |
| 9   |                   |                                |                                     | 心身障害者及び高齢者の外出支援事業   |    |    |    |    |     |  |  | ○ | ①地域住民、町会・自治会の代表者、民生委員児童委員等による日常活動の情報交換と災害時における連携体制の検討会を開催した。<br>②災害時に関する住民ニーズをアンケート調査し、報告書を作成した。<br>③災害ボランティアセンターの基盤整備と啓発活動を実施した。 |
| 10  |                   |                                |                                     | 歩行困難な障害者・高齢者に社会参加を促進するために、福祉カーの貸出事業を行う。<br>また、運転ボランティアも育成し移送サービスを行う。外出支援事業の啓発活動を行う。 |    |    |    |    |     |  |  |   |   |
| 11  | 矢切地区社会福祉協議会       | (旧)健康福祉本部<br>企画管理室<br>(現)地域福祉課 | 防災体制・<br>要援護者支援関係                   | 矢切地区、災害時要援護者支援<br>ならびに防災体制の構築   | ○  |    |    |    | ○   | ①宮城県名取市、福島県いわき市等を視察した。<br>②防災マップの作成を行うとともに、要援護者リスト、SOSカードを作成し、各町会に周知した。(SOSカードについては、20町会中10町会にて取り組み開始)<br>③防災組織の構築、防災倉庫の整備等を行った。   |  |   |   |
| 12  | 明第1地区社会福祉協議会      | (旧)健康福祉本部<br>企画管理室<br>(現)地域福祉課 |                                     | 災害弱者情報の調査と災害発生<br>時近隣自治会・町会との情報交<br>換組織づくり  | ○  | ○  | ○  | ○  |     |  | 災害弱者を把握するためアンケート調査を行い、報告書を作成した。各町会に地域支え合い体制づくりの推進を要請した。<br>災害発生直後のトランシーバーによる情報交換体制づくり。   |   |   |
| 13  | 馬橋地区社会福祉協議会       | (旧)健康福祉本部<br>企画管理室<br>(現)地域福祉課 |                                     | まばし防災まちづくりⅡ   |    |    |    |    |     | ○  | ①災害時における災害時要援護者対応及び地域内の協力体制を維持するため、災害時にも活用できるデジタル簡易無線機モトローラと発電機を購入した。<br>②一時避難所とし各町会・自治会ごとに身近な避難所を設置し、避難誘導看板等を設置し周知した。それにより、地域住民の防災意識の向上等が期待できる。 |   |   |

| No. | 事業主体                                 | 問い合わせ先                         | 区分                        | 事業                                | 高齢 | 認知 | 障害 | 家族 | その他 | 事業概要   |
|-----|--------------------------------------|--------------------------------|---------------------------|-----------------------------------|----|----|----|----|-----|--|
| 14  | 社会福祉協議会<br>小金原地区社会福祉協議会              | (旧)健康福祉本部<br>企画管理室<br>(現)地域福祉課 | 防災体制・支援関係<br>支援関係<br>支援関係 | 災害支援ボランティア整備事業                    | ○  | ○  | ○  | ○  | ○   | 小金原地区災害時のボランティア体制の確立と実施体制の整備<br>①ボランティアネットワークの構築<br>②ボランティア研修会の実施<br>③ボランティアコーディネーターの育成<br>④ボランティア受入れ、派遣訓練の実施<br>⑤防災用品の整備  |
| 15  | 常盤平団地地区社会福祉協議会                       | (旧)高齢者福祉課<br>(現)高齢者支援課         | サロン                       | いきいき福祉塾                           | ○  |    |    |    |     | 「健康福祉塾(月1回)」、「カルチャー塾(月1回)」、「音楽の集い(月1回)」、「フリー塾(東日本大震災の被災地を視察、写真展・個展の開催)」を開くことにより、住民同士のふれあいの和を広げた。また、被災地(陸前高田市、大船渡市)の視察を通して、防災意識を高めた。  |
| 16  | 特定非営利活動法人<br>NPOメーク                  | (旧)健康福祉本部<br>企画管理室<br>(現)地域福祉課 | サロン                       | 地域活動の場の拠点整備事業                     | ○  |    | ○  | ○  | ○   | 障害者、高齢者、家族、ヘルパー、ボランティア等が集まるサロンを整備した。   |
| 17  | 特定非営利活動法人<br>(NPO法人)<br>孤独死ゼロ研究会     | (旧)高齢者福祉課<br>(現)高齢者支援課         | サロン                       | よろず相談、研究事業                        | ○  |    |    |    |     | 安否確認から納骨まで広い分野の総合相談事業を展開するとともに、研修・研究活動に取り組んだ。(相談員8名)   |
| 18  | 特定非営利活動法人<br>千葉県精神保健福祉<br>ネット        | 障害福祉課                          | 相談・支援事業                   | 地域で孤立している精神障害者等の支援事業              |    |    | ○  | ○  |     | ①障害者等の電話相談。(17名70回)<br>②医療や必要な福祉サービス等につなげた。(6名)<br>③孤立している障害者や家族等を訪問し、相談を受けた。(3名21回)<br>④必要な関係機関との調整やマネージメントをする。(7名)<br>⑤おんだアウトリーチとの連携。アウトリーチ事業評価検討委員会に参加した。(2回)<br>⑥障害者に対する地域の理解を図る。(ボランティア養成講座等開催)<br>⑦職員の各種研修会への参加と他施設への見学、交流の実施。 |
| 19  | NPO法人おおぞら                            |                                | 相談・支援事業                   | 地域で孤立している精神障害者等の支援事業              |    |    | ○  | ○  |     | ①福祉サービス利用や申請に係る訪問支援、同行。<br>②高次脳機能障害の診断を取るための検査同行など。(複数回)<br>③問題解決やインテークのための訪問支援。<br>④医療との関係をうまく結ばず、困難を抱えている人への支援。<br>⑤孤立している人への訪問支援。<br>制度利用では提供できない支援を担うことができた。   |
| 20  | NPO法人地域支援センター                        | 地域福祉課                          | ネットワーク・連携体制<br>構築         | 松戸支え合いネットワークの構築事業&生活支援を行う各種団体等の連携 | ○  | ○  | ○  | ○  |     | ①要介護者への支援事業所のデータベースの構築を図った。<br>②介護福祉サービス向上に関するアンケートを実施した。<br>③市内デイサービス、有料老人ホームでの機能向上に連動した障害学習プログラム(図画工作プログラム)の提供(開発)の取り組みを開始した。今後、指導員の育成と、本サービス提供による介護福祉事業者のネットワーク作りを実施する。   |
| 21  | 特定非営利活動法人<br>土曜会                     | 障害福祉課                          | 人材育成                      | 心のケア相談員養成研修                       |    |    |    |    | ○   | ①心のケア相談員の養成研修(6回 延べ151人)<br>②ひきこもり支援員研修(6回 延べ148人)<br>③市民公開講座(101人)<br>④研修を通じた横のつながりができた。  |
| 22  | 社会福祉法人<br>松栄会<br>特別養護老人ホーム<br>ひまわりの丘 | (旧)高齢者福祉課<br>(現)高齢者支援課         | 人材育成                      | 特養老人ホームを中心とした認知症高齢者等の見守り、支援体制の構築  | ○  |    |    |    |     | ①認知症サポーター養成講座(3回 延べ83名)<br>②認知症介護スキルアップ講座(3回 延べ173名)<br>③地域づくり懇談会(2回 延べ33名)<br>④ケアケア交流講座(3回 延べ47名)<br>⑤認知症啓発ツール作成(リーフレット500部、クリアファイル1000部)   |
| 23  | 自治体<br>松戸市                           | (旧)健康福祉本部<br>企画管理室<br>(現)地域福祉課 | 防災体制・支援関係<br>支援関係         | 地域ケアシステム事業・要援護者台帳整備業務             | ○  | ○  | ○  | ○  | ○   | 要援護高齢者、障害者等の情報を集約した台帳を整備するための機能を、既存の介護保険システムに追加導入した。   |
|     | 計21団体                                |                                |                           | 計 23事業                            |    |    |    |    |     |  |